



みんなの水泳……日々徒然

東京2020に向けて ～“東京2020+1に向けて～

▶はじめに

前回は、2021年に向けてのパラ水泳界の現状やパラ水泳の競技規則についてをお伝えしました。

今回も同様に、現状やパラ水泳の競技規則についてお伝えしたいと思います。

▶2020年後半のパラ水泳競技会は…

2020年10月15日～18日にドイツのベルリンで、WPSワールドシリーズとして、IDMベルリン2020大会が開催されました(当初は6月にWPSワールドシリーズの最終戦として開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け中止となっていました)。

このIDMベルリン2020大会には、主に欧州からスペインやスロバキア、ポーランド、チェコ、オーストリアなど11か国120名以上が参加しました。4つの世界記録が樹立され、何人かの選手はMQSを突破するなど、例年に比べて参加者が少ないなりに盛り上がったようです。

新型コロナウイルス感染症対策として、レース直前までマスクをする、パーソナルディスタンスを保つなどが徹底されていたようです。表彰式では、プレゼンターなしで、トレイの上のメダルを選手がピックアップする形で実施されていました。見慣れない光景ですが、人と人との接触を避ける工夫のひとつなのでしょう。

大会のウェブサイトでは、2021年は6月17～20日に大会が予定されている旨の発表もされています。ウェブサイトには、今回の動画も掲載されています。

●大会公式サイト

<http://idm-schwimmen.de/home.html#timetable>



前号でお知らせした2020年12月に開催予定だったIWASワールドゲームスは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、中止となっています。

例年であれば、年の明けた2月頃からWPSワールドシリーズ大会が始まるわけで、各国とも年内は次年の計画策定に忙しいはずですが、今年はまだワールドシリーズの発表がありません。

その他の国際大会について、これまでに発表されているのは、欧州オープンパラ水泳選手権大会です。2021年5月16-22日にフンシャル(ポルトガルのマデイラ諸島にある)で開催予定です。このフンシャルは、次回のWPS世界選手権の開催予定地でもあります。

2021年開催の東京2020大会に向けて、設定された期限までに国際クラス分けを受けなければならない選手(ステータス



仙台で行われた2020年度強化育成合同合宿兼秋季記録会でも、選手たちはスタートに着く直前までマスクを着用



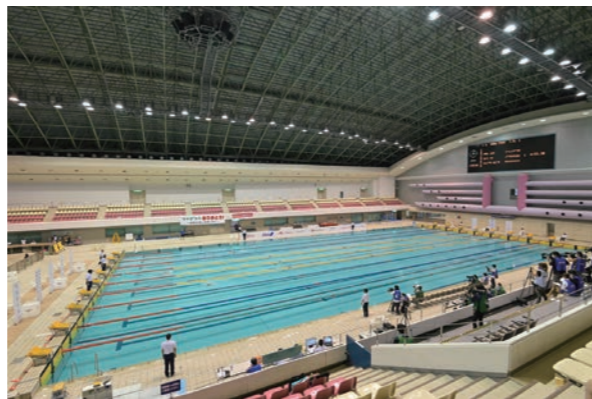
競技役員やタッパーなど関係者もマスクを着用して大会を実施しました

がRやR2020、R2021など)が一定数いること、MQS/METを突破する機会が限られている現状で、各国が国際クラス分けと国際大会の実施を切望していると思われる。

しかし、昨今の世界各地での新型コロナウイルス感染状況を考えると、今後の詳細な見通しが立つまでには時間がかかると思われる。

国内においては、11月7～8日に、仙台で「2020年度強化育成合同合宿兼秋季記録会」が実施されました。先の3月に春季記録会が中止になって以来、ここまでパラ水泳の競技会がなかった2020年、久々のレースでしたが、世界記録1つを含む多くの日本記録が出ました。

今後は、日本パラ水泳選手権大会が2021年3月6～7日に静岡県富士水泳場で、2021ジャパンパラ水泳競技大会(横浜



2020年度強化育成合同合宿兼秋季記録会は無観客で開催、久しぶりの公式記録会となりました



男子1000m平泳ぎで山口尚秀選手(5B14)が、1分4秒13で自らの持つ世界記録を更新

国際プール)が2021年開催の東京2020パラリンピック競技大会の代表の選考戦を兼ねて、2021年5月21～23日に予定されています。

▶2021年開催の“Tokyo2020”について…

2021年に延期された東京2020パラリンピック競技大会については、2021年8月24日(火)に開会式、9月5日(日)に閉会式、パラ水泳の競技については、8/25(水)～9/3(金)の10日間(午前セッション9:00開始で予選、午後セッション17:00開始で決勝を行うことが発表されています(セッション終了は日によって異なります)。

〈参考〉選手枠の配分方法などは、『Tokyo2020 Paralympic Games Qualification Regulations』に記載されています(最新版は2020年11月版)。

https://www.paralympic.org/sites/default/files/2020-11/2020_11_10%20Tokyo%20QG.pdf



東京アクアティクスセンター



3駅から徒歩圏内、辰巳の森海浜公園に新設された東京アクアティクスセンター

2020年10月24日に東京アクアティクスセンターの完成披露式典がありました。主催者や来賓挨拶やテープカット、飛び込みやAS、競泳(オリ・パラ)などのデモンストレーションが行われました。

現在は、東京都が「施設体験会」を実施しています(ただし、東京2020大会に向けた準備のために、東京2020組織委員会による仮設物設置工事等があり、催し物のあるとき以外は施設および敷地に立ち入ることができないようになっています)。

●東京アクアティクスセンター公式
<https://www.tef.or.jp/tac/index.jsp>



パラ水泳競技規則

●片手スタート

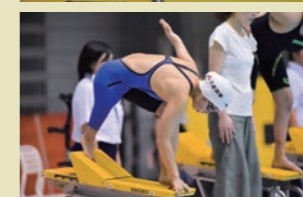


背泳ぎで片手スタートをする選手

背泳ぎでは、基本的に「両手でスターティンググリップを握って…」とルールで定められています。しかし、切断や欠損、麻痺などがあり、スターティンググリップを握ることが難しいと(クラス分けにおいて)判断された場合*には、片手でスターティンググリップを握ればOKとされます。

*クラス分けにおいて「1」というCoEが付与された場合

●義足は使わない



義足で入場し、義足を外して泳ぐ西田杏選手(S7)

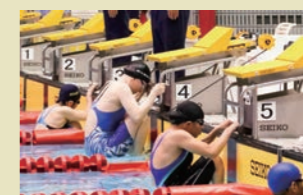
陸上で行う他のパラスポーツでは、スポーツ用の義足などに最新のテクノロジーを反映したものが登場しているようです。

水泳では、規則で「浮力や推進力を助長するもの」を使うことが許されておらず、競技場面においては義足や装具などを装着することが許されていません。義足や装具を使う選手は、レース後、陸上に乗ってきた後にベンチ等に座ってそれらを装着します。

今は規則上許されていないわけですが、いつか時代の流れが変わり、例えば、最新の科学やテクノロジーを活かして、浮力バランスなどを考慮したり、フィンのようなよくなる競泳用の義足をつけて泳ぐのが当たり前になる時代が来るのかもしれない。

今はあくまで想像の域を出ませんが…。

●バックストロークレッジは使う?使わない?



4コースの選手はバックストロークレッジを使用、3コースと5コースの選手は使用していません

一般の水泳競技会における背泳ぎでは、どの選手もバックストロークレッジを使いますが、パラ水泳では、バックストロークレッジを使用する選手と使用しない選手がいます。

例えば、両下肢が麻痺で動かない場合など、スタートの際に壁を蹴ることが困難で、下肢のコントロールが効かない場合、バックストロークレッジに脚が引っかかってしまうようなリスクがあります。それぞれの選手の障がいや機能などにより、様々であることに留意が必要です。

競技役員は、背泳ぎ種目で、場合によってはバックストロークレッジが水中にない状態でスタートがなされることもあることを覚えておきましょう。